

	月初	月末	平均
4月	115	113	114.5
5月	113	116	114.5
6月	116	119	117.5
7月	119	122	120.5
8月	122	125	123.5
9月	125	128	126.5
10月	138(+10)	141	139.5
11月	141	144	142.5
12月	144	147	145.5
1月	157(+10)	160	158.5
2月	165(+5)	168	166.5
3月	173(+5)	176	174.5

總計 1,644.5万屯

月平均 137万屯

右ノ他、定期客船々々ノ万屯ハ従来貨物月25万屯ヲ輸送シアリ  
 タルヲ以テ之ノ万屯ニテモ同様ノ割合ニテ輸送スルモノトセル  
 19万屯ノ輸送ガアリ故ニ、之ヲ加フレバ 137+19=156(万屯)

右ニ對シ、能率増進(荷役等)5%増トスレバ 163万屯ナリ

別ニ

(2) A.B 帰リ船腹ノ利用状況推定

① A 船

イ、統師部内示ニヨレバ 60 万屯ハ年間ヲ通シソノ  
帰航船腹ヲ利用シ得ルモノナルモ物動物資ニ引  
当ヲ得ベキ船腹ハソノ 50% ト推定ス

ロ、南方トノ運行回数ヲ年六回トス

ハ、10,000 屯型船舶ニヨル一航海ノ積載量 9,000 屯トスレバ

ニ、A 船ニヨル物動物資輸送量ハ

$$60 \text{ 万} \times \frac{1}{2} \times 6 \times 0.9 = 162 \text{ 万屯}$$

② B 船

イ、17 年度々々～5 実績 6 月推定ヲ基準トシ、本年  
輸送量ヲ推定スレバ

$$60 \text{ 万屯} \times 4 \times 60\% = 144 \text{ 万屯}$$

ロ、18 年度ニ於テハ更ニソノ 70% ト推定スレバ

$$144 \times 0.7 = 100 \text{ 万屯}$$

五、鐵鋼生産關係

(1) 鐵鑛石ヨリ見タル生産量

(1) 製銑用鑛石

(イ) 海上輸送ヲ要セサルモノ

二、八〇〇千屯

(ロ) 海上輸送ヲ要スルモノ

三、二〇〇千屯

配當船腹四〇〇萬屯中、八割ヲ製銑ニ使用スルモノトス

(ハ) 合計

六、〇〇〇千屯

(2) 右ニヨル銑鐵國內生産

三、二四〇千屯

銑鐵ノ生産割合ハ鑛石ニ對シ 五四%トス

滿洲、支那産銑鐵

五〇〇千屯

合計 銑鐵供給力

三、七四〇千屯

(3) 右ノ内普通鋼々材生産用 (3/4)

二、八〇五千屯

右ニヨル普通鋼々材生産高 (7/8)

三、二七三千屯

(4) スタラツプ増加挿入ニヨル増産 (5%) 三、四三七千屯

屑鐵ノ一般回收及特別回收ハ二五〇萬屯程度ヲ實施スルモノトシ  
來ニ若干ノ余裕ヲ殘スモノトス

(四) 右ハ鐵礦石ノミヨリ見タル生産量ノ推定ナルモ鐵礦生産ノ他ノ生産條  
件ヲ考慮セサル可カラス。

即チ鐵礦石ノ品位ノ低下、原料炭ノ供給及ソノ品位、副原料ノ供給、  
製鐵爐ノ能率、勞働力ノ質及量的供給ソノ他アラユル部面ニ於テ生産  
力昂揚ニ對シ障害ヲ生シツツアル現況ニアルヲ以テ之等ノ部面ニ付  
徹底的刷新改善ヲ實現シ得ルニアラサレハ第一項ノ生産量ヲ確保ス  
コトハ困難ナルコト明カナリ

故ニ右ノ生産量ヲ確保スル爲ニハ官民一致眞ニ超非常時認ニ徹底  
渾身の力努力ヲ要スルモノニシテ尋常一樣ノ手段ニ於テハ到底不可  
ナルヘシ

之ノ點ニ於テ政府ハ一大勇猛心ヲ振ツテ施策スルコトハ絕對必要ナ  
ルヲ以テ右鐵礦生産量ニ基ク物動計畫案並之カ影響次ノ如シ  
物動關係  
別紙ノ通

別紙第一

昭和十八年度物動概案

一、編材供給量

三四三七〇〇〇地

二、配

A B (C<sub>1</sub>才含△)

二〇〇四〇〇〇地

要増加 (B)

五〇〇〇〇〇

計

二〇五四〇〇〇

差引〇關係

一三八三〇〇〇

三、〇内譯

船舶造修 (B)

六五四〇〇〇地

O<sub>2</sub>

四〇八〇〇〇

O<sub>3</sub>

二〇〇〇〇〇

O<sub>4</sub> 1

七〇〇〇〇〇

O<sub>4</sub> 口

八〇〇〇〇〇

O<sub>5</sub>

二二三〇〇〇

四 說 明

(1) A 需要量ハ九〇〇千地トス

B 需要量ハ昭和十七年度一、一〇〇千地ナルヲ以テ同年度改訂物動ニ於ケル鋼材供給力以ニ七〇千地ヲ基準トシ鋼材供給力三、四三七千地ノ場合ニ於ケルB 需要量ヲ推算スレバ八八〇千地トナル  
 $O_1$  需要量モ同様ノ比率ニ依リ昭和十八年度所要量ヲ推算スレバ二二四千地トナル

(2) 以上合計 A B (  $O_1$  ヲ含ム ) 二〇〇四〇〇〇地

要増加 ( B )

五〇〇〇〇

A B (  $O_1$  ) 總計

二〇五四〇〇〇

第二

昭和十八年度物動ニ及ホス影響

一、C 關係鋼材配當量一、三八三千瓩トナル處之ヲ昭和十七年度當初物動C 配當量二、二四〇千瓩及改訂物動C 配當量一、六九一千瓩ニ對比スレバ對前者六二%、對後者八二%トナリ右數量ヲ以テシテハC<sub>2</sub>關係擴充用鋼材ノ配當ハ全然不可能ニシテ補修運轉用鋼材モ殆ンド全面的ニ相當ノ壓縮ヲ余儀ナクセラル

二、船舶造修ニ關シテハ本年度計畫造船ガ鋼材供給力ノ前提トナリ居レルヲ以テ其ノ必要量ヲ配當ス

三、C<sub>2</sub>關係ニ付テハ

(1) 擴充用鋼材ハ全部門ヲ通ジ之ヲ配當スルコトヲ待ズ補修運轉用鋼材ハ輕金屬ニ於テ昭和十七年度物動配當量ノ一〇〇%ヲ配當スルコトトシソレ以外ハ夫々ノ重要度ニ應ジ昭和十六年度配當量又ハ昭和十七年度物動配當量ノ六〇%一九〇%ヲ漸ク配當シ得ル狀況ナリ

(2) O<sub>2</sub>補修運轉用配當量ハ四〇八〇〇〇地トナリ之ヲ既往ト對比スレバ

O<sub>2</sub>全量、O<sub>2</sub>補修運轉用

昭和十六年度配當実績(内地) 一、二一三、一四七地 八八四、五八九地

昭和十七年度配當量 一、二五〇、八一八地 六二三、〇〇〇地 (一部推算ヲ含ム)

ニシテ

昭和十六年度配當実績 三四%

昭和十七年度配當量 三五% 六五%

トナリ既ニ相當壓縮サレ居ル昭和十七年度補修運轉用配當量ニ對シテモ六五%トナリ現状維持スラ殆ンド不可能トナルニ至ルベシ

(3) 鐵鋼ニ付テハ昭和十六年度配當実績ヲ基準トシ三、四三七千地ノ鋼材生産ニ必要ナル最低限度ノ鋼材ヲ配當シタルモ鋼材生産量三、四三七千地ナルトキハ現在ノ生産能力ヨリシテ恐ラクハ一部熔鑄爐ノ吹卸シヲ余儀ナクセラルル事態ヲ生ズベク然ルトキハ其ノ修復ニ相當ノ日時ヲ要スルヲ以テ單ニ昭和十八年度ニ於ケル生産ニ止マラズ今十



九年度ニ於ケル鋼材生産量ニ相當大ナル影響ヲ及ホスヘシ

(4) 石炭ニ付テモ配當量九〇千吨ニ壓縮シタルモ之ヲ以テハ昭和十八年度生産豫定量七〇六〇萬吨ヲ確保スルコト到底不可能ニシテ場合ニ依リテハ一〇〇〇萬吨乃至一、三〇〇萬吨ノ減産ヲ招來スルヤモ圖リ知レズ

(5) 輕金屬及電力ハ鋼材ノ面ヨリスレバ現状程度ノ維持ハ略可能ナルベシ

(6) 石油ニ付テハ國內石油鑛山ニ對シテハ昭和十六年度配當実績ノ五〇%ヲ、其ノ他ニ對シテハ同ジク八〇%程度ヲ配當シタルヲ以テ石油鑛山ニ於テ著シク影響ヲ蒙ルベク石油精製ハ略可能ナリト雖モ多少ノ困難ハ免レズ

(7) 鐵道車輛配當量ハ昭和十六年度配當実績ノ八〇%程度ニシテソノ鋼材需要ノ現状ニ鑑ミルトキ著シク惡影響ヲ露呈スベシ

(8) 自動車配當量ハ三三、〇〇〇吨ニシテ之ヨリスレバ昭和十六年度生産量ノ約七〇%程度ニ生産低減スベシ

(9) 非鐵ニ付テハ昭和十六年度配當量ノ約六〇%程度ニシテ徹底的ニ重點配當ヲ爲シ且資材ノ轉用方途ヲ詳ズルニ於テモ猶或種ノモノニ付テハ一例ヘバ亞鉛、炭鉛、螢石等ノ相當ノ產ヲ余曠ナクセララルベシ

(10) 工作機械及重要機械ニ對シテハ昭和十六年度配當實績ノ八〇%乃至九〇%ヲ配當ス

(11) 曹達、磁安、セメント、バルブニ對シテハ昭和十七年度配當量ノ六〇%乃至八〇%ヲ配當シタルモセメント、磁安、バルブニ於テハ現狀維持ハ恐ラク不可能ナルベシ

四〇<sup>三</sup>ニ對シテハ止ムヲ得ズニ〇千地ヲ配當シタルモ之ヲ以テ本部門ヲ賄フコトハ到底不可能ニシテ單ニ鐵道省關係ノミヲトルモ同様ニシテ止ムヲ得ザルヲ合ハ他ノ部門ノ犧牲ニ於テ彼此融通スルヲ要スベシ

五〇ニ付テハ昭和十七年度ニ對比スルニ

昭和十七年度

昭和十八年度

當初 改訂

對當初 對改訂

比率

C <sub>4</sub> イ	二〇八、七五一	一四九、一七〇	七〇、〇〇〇	三四%	四七%
C <sub>4</sub> ロ	三八、一〇七	二八、四五〇	八、〇〇〇	二一%	二八%

ニシテ極メテ大ナル壓縮率トナリソノ影響甚大ナルモノアルベク率テハ對日供給ニ著シキ影響ヲ及ホスヘシ

六〇<sup>5</sup>ニ付テハ昭和十七年度配當量五七二、〇五七地（改訂四二〇、五四二地）ニシテ假ニ最低限度ノ所要量ト目サルルモノヲ推算スルモ三八五〇〇〇地ヲ下ラザルベク之ニ對シニ二三、〇〇〇地ノ配當量ハソノ五八%ニ相當シ之ヲ以テシテハC<sub>5</sub>關係ノ現状維持ハ到底不可能ニシテ本部門ニ於ケル産業ハ固ヨリ一般國民生活ニ對シ著シキ惡影響ヲ及ホシ戰時經濟ノ運営ガ國民生活部門ノ一端ヨリ崩ル、虞ナシトセズ前途憂慮スベキモノアリ徹底セル對策ヲ要ス

七右ノ如ク鋼材供給量四、三四七千地ヲ以テ能フル限りノ配當計畫ヲ樹立

シタルモ到底満足スベキ結果ヲ得ル能ハズ以上ヲ綜合スルニ

(1) 基礎産業部門タル鐵鋼、石灰、電力ニ於テ電力ノミ略現状維持可能

ナルモ鐵鋼ニ於テハ一部熔鐵爐ノ吹卸シノ事態發生シ本年度ハ固ヨ

リ次年度以降ニ及ボス影響甚大ナルモアリ石灰ニ於テモ相當ノ減産

ヲ余儀ナクセラレ他産業ニ相當ノ悪影響ヲ及ボスベシ

(2) 船舶、輕金屬、電力、石油精製ヲ除キ<sup>2</sup>部門ハ一率ニ現状維持困難

ナルベシ、船舶ニ於テモ工作機械ヨリ、電力ニ於テモ石灰ヨリ制約

セラルルコトアルベシ

(3)  $O_3$  及  $O_5$  及ボス影響甚大ナルモノアリ

(4)  $O_4$  部門ニ付見ルニ對外關係ニ於テ好モシカラザル影響ヲ生ズベシ

(5) 一應ノ概算ナルモ關係ニ於テ最低限度一、三一五千地ノ鋼材ヲ必要

トセラルベク之ニ計畫造船用鋼材ヲ加フルトキハ猶五八六千地程度

ノ増量ヲ要スベシ

(3) 要之今次作戦遂行不可能ニハ非ザルモ之ヲ斷行スルニ於テハ經濟面  
ニ於テ相當ノ混亂ヲ生ズルノミナラズ今年ニ於テ經濟力ノ低下ハ  
必至ト豫想セザルベカラズ

仍テ國內ニ於ケル當然ノ摩擦不滿ノ惹起スルコトヲ覺悟ノ上強固ト  
ル決意ヲ以テ徹底セル縮制施策ヲ今直チニ實行スルノ要アルハ勿論  
ナルモ之ヲ以テノミ凡テヲ克服スルコトハ恐ラク不可能ナルベシ

昭和十八年度物動概案表 (鋼材配当量)

合計	緊急保留	C5	C4 イ	C3	C2	C	船舶造修(B)	AB(含C)	昭和十八年度	昭和十七年度	全上改訂	比	
									陸	当部		対十七年度当部	対十七年改訂率
二,四三七,〇〇〇		二,二三〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇 八〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	四〇,八〇〇 二,一五〇,八一八	七二九,〇〇〇 二,二四〇,〇〇〇 (一,六七九)	六五四,〇〇〇	二,〇五四,〇〇〇	二,二八〇,〇〇〇	五三四,〇〇〇	二,〇四六,九二一	九〇%	一〇〇%
五,〇五四,二〇〇		五七二,〇五七	二〇八,七五一 三八,一〇七	一八八,七八八	一,一五〇,八一八	二,二四〇,〇〇〇 (一,六七九)	五三四,〇〇〇	二,〇四六,九二一	二,二八〇,〇〇〇	五三四,〇〇〇	二,〇四六,九二一	一一二%	一一三%
四,二七二,三三三		四二〇,五四二	一四九,一七〇 二八,四五〇	一三九,八五九	八六四,三四四	一,六九一,九四二 (一,一七)	五三三,三四六	二,〇四六,九二一	二,二八〇,〇〇〇	五三三,三四六	二,〇四六,九二一	一一二%	一一三%
		三九%	三四%	一一%	三五%	三三%	一二二%	九〇%	一一二%	一一三%	一一三%	一一二%	一一三%
		五三%	四七%	一四%	三九%	四四%	一一三%	一〇〇%	一一二%	一一三%	一一三%	一一二%	一一三%

附表二

部	鉄石	軽石	非石	工石	重鉄	自鉄	曹自	セ	パ	電	硫	合
部	鋼	炭	属	鉄	油	械	械	車	連	ト	プ	安
昭 和 十 八 年 度	九 〇 〇 〇 〇	七 〇 〇 〇 〇	七 〇 〇 〇 〇	八 〇 〇 〇 〇	九 〇 〇 〇 〇	五 〇 〇 〇 〇	三 〇 〇 〇 〇	七 〇 〇 〇 〇	四 〇 〇 〇 〇	七 〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇	計 四 〇 八 〇 〇 〇
昭 和 十 七 年 度	九 〇 〇 〇 〇	四 〇 〇 〇 〇	五 〇 〇 〇 〇	七 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇
物 動	九 〇 〇 〇 〇	四 〇 〇 〇 〇	五 〇 〇 〇 〇	七 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇
対 七 年 衣 比 率	二 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	三 五 %
備 考	<p>昭和十七年度配当量ハ拡充用ヲ 含ムヲ以テ本表ノ如キ比率トナ ルモノトス。</p>											

昭  
和  
十  
八  
年  
度  
の  
関  
係  
鋼  
材  
配  
当  
概  
案

別野新頁



統帥部内案ニ對スル意見（追加）

食糧關係

一、判決

穀類特ニ米ニ付テハ消費節約強化等ノ手段ヲ講ジ概ネ現行配給量一人一日當三三〇瓦ヲ維持シ得

燐鎂石、飼料、油脂及砂糖ニ付テハ概ネ昭和十六年度及昭和十七年度程度ノ配給ヲ維持シ得ル見込ナルモ肥料ハ相當ノ節減ニシテ木材ハ昭和十六年度ノ二割五分程度ナリ（別紙参照）

二、說明

〔穀類〕 昭和十八年度内地米穀供給量七七二五萬石、需要量八五五〇萬石、差引不足八二五萬石（需給推計表略）此ノ内搗精度ヲ現行ノ九四%ヨリ（更ニ二%）低下スルコトニ依ル節約六四萬石ヲ見込ミ不足七六〇萬石ハ外米ヲ輸入ス之ニ要スル船腹チ一二〇萬屯トス尙北海道、樺太、南洋、台灣等ト内地トノ間ノ米ノ輸送ニ要スル船



腹竝ニ小麥粉、大豆、雜穀等ノ輸送ニ要スル船腹ノ昭和十七年度計畫量ハ合計約一六三萬屯ナルヲ以テ之ニ配當スル船腹量ヲ一六〇萬屯トス

右合計二八〇萬屯

（一）磷鑛石、飼料、油脂及砂糖ハ昭和十六年度又ハ昭和十七年度程度ヲ維持スル要アリト認メ別紙ノ通配船ス

（二）肥料ニ對スル配船ハ昭和十六年度実績ノ約六割二分ナルヲ以テ國內供給ハ稍不圓滑トナル虞アルモ陸上輸送ノ增強、綠肥、堆肥等自給肥料施用ノ強化、重點主義ノ徹底ヲ圖ルコトニ依リ之ヲ補填スルモノトス、又木材ニ對スル配船ハ約二割五分ナルモ極力重點主義ヲ徹底スルモノトス

（三）北洋漁業用配船量ハ二〇萬屯（六月間四〇萬屯、昭和十七年度程度）トス

北 洋 漁 業	計	木 材	砂 糖	油 脂	飼 料	磷 礦 石	肥 料	穀 類	物 資 度 實 績		昭 和 十 七 年		昭 和 十 七 年		重 要 度		配 船 費		修 正	
									昭 和 十 六 年	昭 和 十 七 年	度 推 定 實 績	昭 和 十 七 年	度 計 畫	A 二 依 ル	B 二 依 ル	配 船 費	修 正			
五六一	七九八〇	二〇二五	四七七	二三四	二八〇	四五三	一、一三七	三、三七四	昭 和 十 六 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
	五八三四	一、四六八	三八四	一三二	二〇〇	二二二	八二〇	二、六〇八	度 推 定 實 績	度 推 定 實 績	度 推 定 實 績	重 要 度	配 船 費	修 正						
	四一五	八二八	二一	一〇七	九	五五	四五	九一	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								五〇〇	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								四、三三七	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								一、四四三	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								九二五	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								四八〇	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								五三九	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								一〇〇	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								九六九	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								八七九三	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								一〇〇	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								四四	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								一三	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								一一	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								一〇	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								七五	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								七〇二	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								二七〇	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								三二四	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								四〇五	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								五一三	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								五四〇〇	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								五四〇〇	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						
								二〇〇	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	昭 和 十 七 年	重 要 度	配 船 費	修 正						

昭和十八年度配船計畫案

(單位千屯)



一石油ノ面ヨリスル「ソ」聯ノ能力判斷

鈴木 研究生調査

一全「コーカサス」ヲ喪失セシ場合

判決一喪失後相當期間經過後崩壊セシ（相當期間ノ意ハ貯藏ノ量ニ依ル）

理由

(イ)「ソ」聯發表ノ數字ハ政策的ニシテ殊ニ最近ノ數字ハ益ソノ傾向著シク、「ソ」聯石油ノ「コーカサス」依存性ヲ過少ニ發表シツツアリ現在モ殆ド同率ナリト思惟ス

(ロ)ウラル地方就中第二バク「ポストコネフチ」ノ産額ヲ過大ニ發表シ居ルガ、相當疑問ナリト思惟ス「ソ」聯側發表數字ノ1/2以下ノ産額ヲ第二バク「ハ有スルニ過ギズ（六五〇万吨）」

(ハ)之ヲ裏カラ云ヘバ、獨乙ノ「コーカサス」攻撃ハ常識的ニ言ツテ先ツ「コーカサス」カラノ輸送路ヲ次ニ「コーカサス」其者ヲ喪フダ

ラウト云フコトハ確實ナリ、從テ「ソ」聯トシテハ之ニ對シ万全ノ準備ヲ施セシコトハ疑ナキ事ト思フ即(A)貯藏(B)新油田ノ開發等ヲ思切ツテ實施シ居ルコトト思フ、貯藏ニ付テハ相當準備シ居ルモノト判斷セラル、茲ニ於テ注意スベキハ昨今兩年度ニ於テ使用セシ石油ハ貯藏ニ惟込マズニ濟ミシモノト判斷セラルル事ナリ  
次ニ新油田ノ開發ニ付テハ資材ハ殆ド全部米國製ナルヲ以テ「ソ」聯ノ發表スルガ如ク開發セラレ居ルトハ想像セラレザルモ、「援ソ」物資量如何ニヨリテハソノ埋藏量ヨリスルモノノ抗戰力ニ資スル所大ナルモノト思惟ス

ニ「コーカサス」ヲ含ム「ヴォルガ」河以西喪失セシ場合

判決「ヴォルガ」河以西ニハ油田地帯ニキテ第一同ト同様ナリ但シ近距離ニナルタメ獨乙ノ油田地帯燦々ニヨル採油能力低下セン

三「ウラル」地帯迄喪失セシ場合

判決「全面的崩壊セン

「ソ」聯主要地域別採油量（一九三八）

	採油量（一万吨）	%
「コーカサス」	二、八九九・四	九〇・〇
「イバケー」	二、三九八・〇	七四・〇
「ログロスヌイ」	二七六・四	八・六
「ハクラスノダル地方」	二二五・〇	七・〇
「ウオルガ及ウラル地方（第二バケー）」	一二九・八	四・〇
「エムバ（カザツク共和国）」	六五・二	二・〇
「中央アジア諸國」	六六・二	二・〇
「北樺太（我方利権ヲ含マズ）」	三六・一	一・一
「其他」	二六・四	〇・九
計	三、三二三・一	一〇〇・〇

「ソ」聯石油埋藏量

	埋藏量(奇萬屯)	百分率
コーカサス	三六三、三五四	四三
東部地方(ウラル、ウオルガ、エムバ)	三八七、五七六	四四
其他(中央アジア、北部、極東)	一一三、〇〇〇	一三
合計	八六四、〇〇〇	一〇〇

閣議申合資料

鐵鋼

石炭及アルミニウムノ生産確保ニ關シ  
各省大臣ノ執ルベキ措置ニ關スル件

商工大臣  
淺野 研究生

内務省

現下ノ狀勢ニ鑑ミ鐵鋼、石炭及アルミニウムノ豫定生産量ヲ確保スルハ緊要ニシテ關係各大臣ハ左記事項ニ關シ從來ヨリ實施シアルモ今更一層之ガ實施方ニ努ムルコト而シテ本件實施ノ爲他ノ産業部門又ハ國民生活ニ甚大ノ影響アルモ己ムヲ得ザルモノトス國民ノ士氣振興ノ爲ニハ別途適切ナル對策ヲ樹ツルモノトス

〔共通事項〕

- (1) 工務官及鑛山官制度ヲ充分利用スル外、必要ニ應ジ工場事業場ヲ管理スル等ニ依リ現場ヲ確實ニ掌握シ、中央地方ノ緊密ナル連絡ニ依リ豫定生産量ヲ確保スルコト
- (2) 生産能率ノ向上ニ付、能率基準ノ設定施行（能率診斷班ノ派遣）重

點主義ノ徹底化、報奨制度ノ實施其他凡ユル手段ヲ講ズルコト  
(3) 所要、原材料、資材及作業用品ヲ確保スルト共ニ之ヲ適時適切ニ配給スルコト

(4) 企業幹部ノ陣頭指揮ヲ徹底スルコト

#### 各省大臣

(1) 商工大臣ヨリ必要ナル工場事業場ニ對シ管理ヲ妥請シタル場合ハ之ニ同意スルコト

#### 逓信大臣

(1) 豫定生産達成ニ必要ナル海上輸送ヲ實施スルコト  
(2) 豫定生産達成ニ必要ナル電力ノ供給ヲ確保スルコト

#### 鐵道大臣

(1) 豫定生産達成ニ必要ナル陸上輸送ヲ實施スルコト

#### 厚生大臣

(1) 就業時間、賃金制度其他勞務管理ニ付商工大臣ノ妥請ニ應ジ所要ノ



措置ヲ講ズルコト

(2) 日傭労働者（沖仲仕等）ノ賃金ヲ規正スルト共ニ其ノ統制ヲ強化シ  
工場事業場ヘノ供給ヲ確保スルコト

(3) 醫療用品ニ付所要量ヲ確保スルコト

(4) 勞務者住宅ノ増設ニ努ムルコト

陸軍大臣 海軍大臣

(1) 技術者、熟練工ノ徵集延期並免除制ノ可能ナル範圍ノ擴大ニ努ムル  
コト

(2) 重油ノ配給確保ヲ援助スルコト

文部大臣

(1) 必要アル場合學生ノ動員ヲ實施スルコト

大東亞大臣

(1) 大陸ヨリ鐵礦石、石炭、螢石、マンガン鐵等ノ供給ヲ確保スルコト

二 鐵 鋼

- (1) 副原料其他爐材ノ品質向上及供給確保ニ努ムルコト
- (2) 鑛石、支那産原料用炭ノ價格ブール制度及内地鑛屑ト輸入鋼屑トノ價格ブール制實施

内閣總理大臣及各省大臣

- (1) 特別回收ニ付各省ノ責任數額ヲ定メ之ヲ確保スルコト
- (2) 特別回收ニ關スル國民的運動ヲ指導スルコト
- (3) 集團的鐵鋼増産運動ニ協力スルコト
- (4) 戰時價格ノ設定及寸法ノ單純化ヲ實施スルコト

陸軍大臣 海軍大臣

- (1) 特殊注文(特殊鋼又ハ之ニ類スルモノ)ニ依リ豫定生産ニ減少ヲ來サシメザルコト但シ己ムヲ得ザル理由ニ依リ豫定生産ニ減少ヲ來ストモ特殊品ヲ生産セシムル必要アル場合ハ豫メ閣工大臣ニ連絡スルコト

農林大臣

(1) 米麥其他ノ食糧品ヲ特配スルコト（工場給食一日一人當一合）

農林大臣 厚生大臣

(1) 勞務者不足數ノ供給ヲ確保シ、内相當數ハ重筋勞働ニ堪フル者ヲ農

村ヨリ供出スルコト

（參考）現員數 一三四五四七人

所要員數 一五九〇四七人

不足員數 二四五〇〇人

内 重筋勞働者 四〇〇〇人

石炭

商工大臣

(1) 日本石炭株式會社ノ炭鑛ニ對スル積極的且敏速ナル金融ヲ實施スル

コト

内務大臣

(1) 朝鮮語ヲ解スル警察官ヲ可及的ニ、灰燼ニ配置シ紛争及移動ノ防止ヲ圖ルコト

内務大臣 司法大臣 厚生大臣

(1) 勞務調整令、凶民勞務手帳法、眞金統制令等ノ法令違反ノ取締ヲ徹底強化スルコト

(2) 所謂「ブローカー」ノ不法行為取締ヲ徹底シ灰燼勞務者ノ引拔ヲ防止スルコト

(3) 移入朝鮮人勞務者逃走防止ニ努ムルコト

内務大臣 農林大臣 厚生大臣

(1) 所要勞務者ヲ確保スルコト特に相當職ノ重労働者ヲ農村ヨリ供出スルコト

(参考) 現在在籍數

平均所要數	三五〇、〇〇〇人
	三七〇、〇〇〇人

要充足數 一三二、〇〇〇人

内譯

純増加要員數 二〇、〇〇〇人

移動補充數 一、一、〇〇〇人

(2) 移入朝鮮人勞務者ノ割當數ノ供出ヲ確保スルコト

大藏大臣

(1) 酒ヲ特配スルコト (月一人當清酒八台及燒酎二台)

農林大臣

(1) 米麥其他ノ食糧品ノ所要量ノ供給ヲ確保スルコト (代用食ヲ含ミ一

日一人當男、五五合 女、三五合)

(2) 移入朝鮮人勞務者輸送用辨當米 (二〇三石) ヲ特配スルコト

内務大臣

厚生大臣

(1) 勞務者不足數ノ供給ヲ確保スルコト

(参考)

	現在員數	所要員數	不足員數
アルミニウム	一五七四四	二〇一三一	四三八七
沸化物	九三八	一、六五二	七一四
ビツチコークス	五〇〇	一、二六七	七六七
計	一七、一八二	二二、〇五〇	四、八六八

向野所負



總機要第六號ノ二

昭和十七年十二月一日 一五〇〇交付

總力或桃上演習統監 遠 藤 喜 一

第二回演習訓令追加情況及問題

(一) 一月中旬及二月ノ情況

一、一月二十日御前會議ニ於ケル會戰專項(統帥部案)

帝ハ明年六月以後對G作戰、五月以後對J作戰ヲ夫々好機開始ス。  
之ニ關シテスル根本方針左ノ通

(一) 對G作戰ハG全域及O<sub>6</sub>ノ敵據點ヲ覆滅ス

(二) 對J作戰ハO方面ヨリN本土空襲ヲ不可能ナラシムル程度ニ止ム

(三) Dニ對シテハ万一ニ備フルモ極力開戦ヲ避ク  
但シAノR使用ニ關シテハ嚴重ナル警戒ヲ行フ

(四) 對 G 作戰 就成頃 X ト協同シ N X 連絡ヲ確保スベキ方策ヲ行フ

對 G 對 J 作戰 留施ノ爲ノ新動員新敷用船舶等別紙ノ通(別紙畧)

二 N ハ二月上旬ヨリ 艦密ニ新動員及船舶敷用ヲ開始セリ

三 對 G 作戰 準備完成ニハ二月末ヨリ向約三ヶ月、對 J 作戰 準備完成ニ

ハ約二ヶ月ヲ要スル見込ナリ

四 對 G 作戰 ハ大イニ進歩シ敵後ノ據點「モ」港ノ陥落モ近キニアリ

五 一月二月ノ N A 通商 破壊戰

N ハ八艘(三万吨) A ハ七艘(三万吨)ヲ失フ

六 X ノ海軍 破壊戰

一月四〇万吨、二月五五万吨

七 統帥部ノ N X 連絡根本方策(案) 下ノ如シ

(一) 連絡ノ目的 敵包圍陣ヲ破砕スルト同時ニ X ヲ地理的ニ連絡シテ其

ノ戰力態勢ヲ確固不拔ニシ戰局ノ大勢ヲ決セムトス



(二) 連絡場所  $U_4$   $U_5$  方面

之ガ爲  $N$  ハ  $I_1$  チ 占領シ  $X$  ハ  $U$  全被チ制ス

(三) 連絡時機・  $N$  ノ 封  $G$  作戰概成後並ニ  $X$  ノ  $U$  方面制壓後成ルベク速

=

(四) 連絡事項 戦争指導及物資交換

(五) 交渉開始時機 封  $G$  作戰開始後之ガ見送シツキタル時

(二) 課題

青國演習諸機關ガ二月未迄ニ執ラントスル處置ヲ(十二月三日一〇〇〇  
○迄ニ)提出スベシ



問野折角

軍極秘

總机演第6號ノ二ノ一

閣議決定要旨

一、一月二十日（想定）御前會議後「今後ノ戦争指導方針」ハ前日ノ大本營政府連絡會議議決ノ通 御聖斷ヲ仰ギタリ  
二、對日對丁作戰實施ノ爲ノ新動員新徵用船舶等左ノ通

（一）人員

陸軍新動員

二十万人

海軍新動員（設營隊ノミ）

四万五千人

（二）船舶

陸軍新舊徵用

合計約百八十万屯（新徵用四十万屯）

海軍同

合計約百九十五万屯（新徵用二十五万屯）

（三）資材

砲

陸軍 二十五万屯増

海軍 五万屯増

「アルミニウム」陸軍

八千屯増

海軍 二千屯増

（終）

新報



總機演第六ノ二ノ二

外交關係情況

一、一月末（想定）Nヲ出發セル飛行艇（陸海外ノ司課長搭乘）ハ、E I

X<sub>2</sub>經由二月十五日（想定）Xニ到着セリ

二、N X飛行連絡ハN及X<sub>2</sub>ノ受持トシ當分月一回トスルコトニ協定セリ二

月十六日（想定）

三、外務大臣議會演說ニ對スル「ソ」聯輿論反響

（駐「ソ」大使報告要旨）

（一）本件ニ關スル「ソ」聯輿論反響左ノ如シ

（二）「ソ」聯ハ目下國運ヲ賭シテ獨逸ト戰ヒツツアリ。N國モ同様米

英ト國力ヲ懸ゲテ戰ヒツツアリ

（三）N國政府ニシテ眞ニ兩國間ノ平和的關係ヲ保持セント欲スルナラ

ハ端的ニコノ事態ヲ認識スルコトヲ要ス

町

（三）而モ之ガ爲ニハ兩國政府ニ相等ノ決意ト努力トノ必要ナルベキ點  
ニ關シ「ソ」聯ハN國政府ガ深甚ノ注意ト考慮ヲ拂ハンコトヲ希  
望スルモノナリ。

（終）

尚野所負



總機演第六號ノ二ノ三

外交關係情況

一 N D 中立條約確認交渉ニ關スル D 回答要旨（駐 D 大使電報要領）

〔 N 國政府入手情報ノ如キ事實ナシ

〕 D ノ外交方針ニハ同等變化ナキニモ不拘、N 國政府ガ此ノ概不確實ナル情報ヲ基礎トシテ我方ニ對處セラルルハ D 政府ノ諒解ニ苦シム處ナリ

〔三〕 D トシテハ今般 N 國政府ノ申入レニ對シテハソノ趣旨トスル處ニハ實現ナルモ本件交渉ニ入ルニ先キダチ、本件中立條約締結ノ際ノ N 國政府約束ノ即時履行方ニ關シ N 國政府ノ深甚ノ注意ヲ喚起セントスルモノナリ。

四 貴大使内示ノ共同聲明案ニ關スル最終的意見ハ之ヲ留保スルモ同聲明案第一項ハ從來ノ D ノ對 N 態度ニ續シテ不必要ナルモノト認メラルルノミナラズ當然第二項中ニ包含セラルベキ性質ノモノナレバ之

ハ削除致シ度D政府ノ意圖ナリ

ニ中立「プロツク」形成ヲ法王總ヲ以ジテ勸奨スルコトニ關スル  $X_1 X_2$  版

版

〔 $X_1$ 側意圖（在 $X_1$ 大使館致シ告安旨）

(イ) 中立國ト云フモ土、西、葡、亞、魯等ソノ國際地位同ジカラザレバ之ヲ一視ニ取扱ハントスル今同ノN國政府ノ提案ニハ即時贊成シ難シ（以上 $X_1$ 側意圖）

(ロ) (A)  $X_1$ ハ本件ニ關スル國際情勢ノ見込ニ關シ確乎タル自信ナキモノノ如シ(B) 土、西ニ關シテハ戰局ノ發展ニヨリドウシテモ積極的ニ「アプローチ」(參照)スル必要ヲ見越シ此ノ點ヨリ二ノ足ヲフミ居ルモノノ如シ(C) 我方中立「プロツク」形成ニ關スル構想ガイマダ存ミ込メ難アリ（以上在 $X_1$ 大使館側）

〔 $X_2$ 側意圖（在 $X_2$ 大使館電報々先要旨）

(イ) N側ヨリ此ノ種提案アリタルハ $X_2$ 政府ノ大ニ満足トスル所ナリ

(ロ) 今般中立「プロツク」形成ノ中ニ入ルベキ國家ニハ所謂「ラチン」系ノ國家多クシテ此ノ種「プロツク」ノ形成ハ且ニ現戰爭遂行ニ必要ナルノミナラズ將來世界新秩序ノ建設ニモ資スル所大ナルベキコトヲ認ム

(ハ) 尤モ西、土ニ對シテハ將來ノ戰局ノ發展ニヨリ更ニ積極的ニ「アプローチ」スル必要アルベキヲ以テ此ノ點 $X_1$ 側トモ更ニ詰言ノ上尙分ノ機申進ムベシ

(ニ)  $X_2$ ノ「ラチン」系國家間ニ於ケル地位、法王總トノ關係ハ特ニ英國政府側ニ於テモ充分好意アル考慮ヲ拂ハレンコトヲ望ム（以上 $X_2$ 側意圖）

(ホ) (A)  $X_2$ ハ $X_1$ ヨリモ本件ニ關シ積極的ナリ (B) 以上 $X_1$  $X_2$ 態度ノ相違ハ今則我國從來ノ中立「プロツク」ニ包含セルベキ諸國家トノ關係ノ相違ニアルベキコト $X_2$ 國外相口吻ニヨリテ明カナルベキモ（又 $X_2$ ノ事毎ニ我方ニ依存シテ對 $X_1$ 牽制ニ資セントセルハ $X_2$ 國從來ノ態



度ナルモ (C) A B ノ北阿ト陸ニヨリ「ムツソリ」ニ於テ國策  
ノ根本ニ於テ幾分ノ變更ヲ考慮シ居ルニアラザルヤトノ印象ヲ受  
ケタリ (以上在 X<sub>2</sub> 大使觀測)

秘

緊急陸上輸送封鎖

一八二  
鐵道省

一月 日附閣議決定陸送緊急封鎖策要綱ノ趣旨ニ基キ左ノ通り實施セント

一、目標

戰時増送ノ目標ヲ九州及北海道石炭ノ増送ニ置キ船腹ノ掘出ヲ計ルモノトシ、其ノ他ノ貨物ニ關シテハ概ネ十七年度程度ノ輸送ヲ行フコトトス。之ガ爲一般旅客輸送等ニ對シテハ高度ノ制限ヲ行フ

二、鐵道輸送（第一期計畫）

九州炭 毎日九五〇車（年五百万屯）ヲ關西地方ニ増加陸送ス

北海道炭 青函連絡ニ依リ毎日九〇車（年四五万屯）ヲ増送シ、其

ノ他莫日本諸港揚ノモノヲ京濱及名古屋地方ニ輸送ス  
一般貨物 生糞物資ノ全部及十七年度程度ノ國民生活必需物資ヲ輸送ス其ノ他ノ物資ニ關シテハ強度ノ制限ヲ行フ

旅客

主要幹線ニ於ケル列車ヲ殆メ先ツ三万五千軒ノ旅客列車  
軒ヲ縮減ス之ガ爲輸送制限ノ方法ハ別記ノ通りトス  
旅客列車軒ノ縮減ハ貨物輸送施設ノ改良計畫ノ進歩ト共  
ニ逐次九万軒迄増加ス

三、自動車輸送

自動車輸送力ガ小運送能力及近距離輸送能力ノ根本ナルニ鑑ミ特ニ之  
ガ充足ニ努ム其ノ方法左ノ如シ

(1) 既定代用燃料計畫ヲ效力促進シ三月末迄ニ代燃車以二万五千輛ニ昂  
ム

(2) 輸送ノ統制ヲ強化シ現在ノ貨物自動車運送事業社ヨリ改組シ之ガ引  
受統制ヲ全部ノ貨物ニ及ボス、之ガ爲各府縣ニ輸送統制官ヲ配置シ  
（四月一日ヨリ實施）  
（貨物輸送ト密接ニ連絡シ輸送ノ適正配分及引受ニ付指導ス）

(3) ガソリンノ配給量ハ現在得テ維持ス

#### 四 荷役能力

輸送機關ノ能率ヲ極度ニ昂上スル爲荷役力ヲ增強ス其ノ方法左ノ如シ

- (1) 大口荷役ノ機械化（石炭積却施設ヲ含ム）
- (2) 荷役關係者ノ精神的指導
- (3) 存貯ノ使用及徵用者及報國隊ノ使用増加

#### 五 施設

輸送増加ニ對應スル爲幹線ノ線路容量増加及操車場改良及貨車機關車ノ増備ヲナス其ノ主要ナルモノ左ノ如シ

- (1) 關門第二隧道ノ急速完成（一九年一〇月ノ予定）
- (2) 山陽線ノ全線複線化
- (3) 常磐線及高崎線ノ信號自動化
- (4) 京都大津及敦賀米原間線路増設其ノ他
- (5) 石炭輸送ニ必要ナル操車場ノ改良（成ルヘク速カニ着手ス）
- (6) 貨車及機關車ノ増備

六 資材

右諸計畫ニ要スル資材ハ現有施設ノ需用ニ依ル捻出ヲ第一トシ

(1) 一部線路ノ廢止

(2) 主要ナラサル複線ノ單線化

(3) 輸送少キ線路ノ軌條ノ規格低下等ニ依リ出來得ル限り現在資材ノ活

用ヲ計ルモ車輛ノ新造（廢車補充ヲ含ム）及線路、車輛ノ保持及改良ノ爲ニハ尙左記資材ヲ必要トス

	0 <sup>3</sup> (内地)	0 <sup>3</sup> (外地)	0 <sup>5</sup>
運輸用及補修用	七〇〇〇〇 地	一五〇〇〇 地	一九〇〇〇 地
改良工專用	六〇、四一九	一二、〇〇〇	三、〇〇〇
車輛新造用	四九、〇〇〇	九、五〇〇	—
計	一七九、四一九	三六、五〇〇	二二、〇〇〇
總計	二二七、九一九 地		

鋼材以外ノ所要資材ハ省略ス

河野所長



總機演第六號ノ三

昭和十七年十二月四日 一三〇〇交付

總力戰机上演習統監 遠藤喜一

第二期演習後段情況及課題

一 昭和十八年三月四月ノ情況

一、戰況

(1) 大東亞戰況

〔一〕頑強ナル抵抗ヲ續ケ居タルE<sub>6</sub>ノ「モ」港ハ三月十日遂ニ陷落セリ

〔二〕E<sub>6</sub>及V<sub>I</sub>方面ノ航空消耗戰ハ益激化シツツアリ

〔三〕三月八日A艦隊O<sub>1</sub>方面ノ基地ヲ空襲セルモN航空部隊ハ之ヲ擊退

セ

〔四〕A潜水艦ノN本土近海ニ於ケル活動活潑トナリ三、四月N船舶ノ被

害十六隻（約七萬屯）ニ達ス

(四) N 潜水艦ハ G Z 方面ニ於テ三、四月中ニ A 船舶二十隻（約十萬屯）ヲ撃沈セリ

(六) 三月以後 A 飛行機〇與地ニ著シク増加シ其ノ内ニ大型機約五十機アリト判断セラル

(七) J 飛行機屢々〇占領地區ヲ空襲シ更ニ南〇方面航空基地整備中ナリトノ情報アリ在〇 N 空軍ハ之ヲ攻撃シツツアリ

#### (ロ) 歐洲戰況

(一) X D 戰 X B A 戰ハ四月中旬以後「コーカサス」地中海及 Y 方面ニ於テ活潑トナリ、X B 本國間ノ航空戰益激烈トナレリ

(二) X D 中部及北部戰線ハ依然膠着セリ

(三) Y<sub>6</sub>ヨリ X<sub>2</sub>F<sub>1</sub>ニ對スル空襲ハ相當猛烈ナリ

(四) X ノ通商破壊戰結果ハ三月六、五萬屯、四月六〇萬屯

#### 二、内外情勢

##### (イ) 敵國及中立國ノ情勢

(一) AハGニ大規模ノ工作機關ヲ設置セリト傳ヘラル

(二) Bハ航空兵力及對潛兵力充實シ本國ノ防衛ハ完璧ノ情態トナリ船ノ喪失モ最近著シク減少セリト宣傳シツツアリ

(三) A BノU「スペイン」「ポルトガル」「S<sub>3</sub>S<sub>4</sub>ニ對スル引入工作ハ極

メテ活潑ニ行ハレツツアルモノノ如ク要人ノ往復頻繁ナリ

(四) 三月一日E<sub>1</sub>ハXニ全面協力スル旨聲明セリ

(五) DハNノ新動員ヲ諜知シタルモノノ如クR方面ノ警戒至嚴ナリ

(ロ) Xノ情勢

(特派使節先遣員報告)

(一) Xハ北「コーカサス」油田全部復舊スルモ尙石油不足スルヲ以テ南部「コーカサス」油田占得ヲ絶對必要トスルモノト判斷セラル

(二) Xノ生産力ハ殆ンド其ノ頂點ニ達シタルモノト認めラル

(三) Xノ占領セル地域ニ對スルB Dノ擾亂工作ハ相當活潑ニ行ハレツツアルガ如ク「バルカン」半島方面ニハ「ゲリラ」戰絶ヘザルモノ



ノノ如シ

(四)  $X_1 X_2$  兩國共我特派使節ノ派遣ヲ熱誠待望ス

(ハ) 國內及勢力圏ノ情勢

(一) 新動員及船舶車輛ノ徵用ニ依リ勞働力輸送力不足シ物資ノ生産減退及局部的滯貨増加シツアリ、物動計畫編成ヲ要スルト共ニ生産能率向上策ヲ至急講ズルノ要アリ

(二) 肥料ノ生産及輸送進捗セズ農業生産ニ相當打撃ヲ與フル虞アリ

(三) F 及 T ニハ敵側ノ諜報網殘存シ相當活動シツアル事實ヲ探知セリ

尙內地ニ於テモ機密保持ニ關シ大イニ留意ヲ要スルモノアリ

又敵ハ  $X_1$  ノ F T O ニ於ケル政治的經濟的活動ヲ以テ其ノ東亞ニ對スル野心ヲ宣傳シアリ

(四) G ヨリ E ニ對スル空襲ハ神經戰、細菌戰ヲ併セ行フモノノ如ク人等ノ傳染病及草木ノ枯死増加シ、同方面日用物資不足ト相俟ツテ

住民ハ著シク不安ヲ感ジツツアリ

(四) E F Q T V 方面ノ共產黨員ハ民心ノ不安ニ乗ジ盛ンニ流言ヲ放チ  
占領地擾亂ヲ企圖シツツアリト認メラル

(内) 動員ノ開始ト共ニ N D 賊ニ關スル流言一層盛ントナレリ

M 國內ニ於テモ N D 賊近ク開始ノ流言アリテ殊ニ國境方面ニ於テ民心動  
搖顯著ナリ

(内) 宣戰一週年記念ニ際スル國民運動ニ依リ一時士氣ノ昂揚ヲ見タル  
モ O<sub>4</sub> 攻略後再ビ次第ニ冷却スルト共ニ他方 N 生産力ノ減退ニ伴ヒ  
深刻ナル悲觀論生ジツツアリ又料理店待合ノ殷盛ニ就テ政府ノ處  
置ノ緩慢ヲ非難スルモノ多シ

### 三、統帥部ノ情況

□ 統帥部ハ對 J 作戰ヲ五月上旬、對 G Z 作戰ヲ六月上旬開始ノ意向  
ナリ

(二) 課 題

再國演習諸機關ガ四月末迄ニ執ラントスル處置ヲ  
（十二月五日一六〇〇）  
迄ニ提出スベシ



四月末迄ニ執ルベキ對策

商 工 大 臣

一、配船狀況ニ鑑ミ石炭配給ニ付テハ昭和十七年度下半年期ニ引續キ大略二割ノ消費規正ヲ行フ但シ造船、航空機、アルミニウム、硫安、硝酸、メタノール、ガス、コークス、電力、船舶燃料並ニ鐵道省ノ需要ニ對シテハ規正ヲ行ハス特ニ消費規正實需ニ對シ五割以上ニ及ブ纖維製品、陶磁器、土管、煉瓦類、肥料、油脂、皮革、食料品、豆炭、煤灰等ノ諸工業其他ノ雜工業ニ對シテハ企畫院ト協議之ガ對策ヲ立案ス

二、右石炭ノ大中規正ヲ要スル諸工業從事ノ勞務者ハ相當ノ要轉業者アルヘク之カ轉業配量ニ關シ厚生省ニ連絡ス

三、人絹、スフノ減産ニヨリ十八年度ノ衣料品供給ハ相當窮屈トナル見込ナルヲ以テ纖維製品配給消費統制規則ノ改正ヲナシ消費規正ヲ強化ス（衣料品ノ箇々ノ所要點數ヲ高メ結婚者ニ對スル特配ヲ半減シ、學校卒業者ニ特配ヲ行ハザルガ如キ腹案アリ）他而下着類、肌着類、足袋、靴下ノ増産ニツトム

右消費規正ハ要スレバ新作戦開始時ニ之ヲ施行シテホ大政翼賛會トハ  
カリ生活簡素化ノ徹底ニツトム

四 纖維工業ニツイテハ原材料ノ供給減少、備ノ強制回収ノ増加ノ衣料  
品ノ強化ニ伴ヒ纖維株價ノ一般的下落ノ見込ナルヲ以テ大蔵省ニ對シ  
之カ對策施行方連絡ス

五 國民生活ニツイテハガス、マツ子等ノ供給ヲ減セシメザル如ク燃料原  
材料ノ確保ニツトム

石 炭ニツイテハ購入券制度實施

紙ニツイテハ供給量著減スルヲ以テ新聞、雜誌、書籍、印刷物ノ大中  
規正ヲ行ヒ之ニ關シテハ情報局ト連絡ス他而教科書、軍需、官需ノ確  
保ニツトム

河野折算

軍機秘

總機演第六號ノ四ノ一

特派使節情況

- 首席全權ノ「ヒ」總統「ム」首相トノ會見報告要旨左ノ如シ
- 一「ヒ」總統言明、「ム」首相同意
  - 一Nノ對G作戰ノ必成ヲ信ジ豫メ御成功ヲ祝スルト同時ニ貴作戦ガ歐洲戰局ニモ好影響ヲ及ボスベキコトニ對シ感謝ス
  - 二XニトリテハBD共ニ宿敵ナリ
  - 今春D軍ニ一大痛棒ヲ加ヘタル後B(A)ノ攻撃ニ主力ヲ傾注ス
  - 三NX連絡ノ趣意ニハ全然同意ナリ
- 具體的方策ニ關シテハ委員ヲ組織シテ速ニ協議ス



濠洲統治要綱

一、方針

日本ノ直接統治ノ下ニ強力ニ之ヲ把握シ屬來ト共ニ新占據地統治ノ核  
心地タラシム

二、要領

1 占領後ノ統治ハ當分ノ間現地軍最高指揮官ノ下南方各地域ニ準シ強リ  
力ナル軍政ヲ施行ス

2 作戰進展ト共ニ軍ノ掌握下ニ指導階級ヨリ成ル有力ナル日本人ヲ現  
地ニ進出セシメ之カ急速把握ヲ圖ル

3 統治ハ先ツ政治的把握ヲ主トシ産業的開發ハ不取敢日本ノ緊急必需  
物資ヲ取得スルニ必要ナル範圍ニ止メ爾後國力之ヲ許スニ至リ逐次  
特産資源ノ開發ヲ圖ル

此ノ間作戰軍（成ル可ク南方作戰軍ヲ含ム）ノ現地自活ノ促進ヲ圖  
ル

✓  
± 濠洲人勢力ハ根本的ニ之ヲ一掃シ此等ニ對シテハ勞務並ニ技術資源  
トシテノ利用ヲ圖ル

尙原住民ニ對シテハ其ノ實情ヲ現地調査ノ上之カ利用ノ適正ヲ期ス





占領地軍政實施ニ關スル中央協定追補

對GJ作戰ニ伴フ新占領地域ニ對スル陸海軍軍政實施ノ擔任ヲ左ノ通り  
定ム

一、陸軍ノ主擔任地域

オーストラリヤ本土

二、海軍ノ主擔任地域

ニューカレドニア、タスマニヤ、

ソロモン、其ノ他ノ太平洋諸島

三、海軍ニ於テ根據地ヲ設定スルモノ

シドニー、メルボルン、アデレード、パース、

ダービン、木曜島、ブリスベーン、

軍機密

駐D大使宛訓令

N D 中立條約確認交渉ニ關スル件

貴電D側回答ニ對シ左記趣旨ニテ應酬相成度

一 外交方針ニ何等變化ナキ旨ノD側言明ハ帝國ノ欣快トスルところナリ  
二 然ルニモ拘ラズ再三斯卡ル情報ノ流布セラハND關係ノ靜謐ヲ希  
望スル帝國ノ遺憾トスルところニシテD側モ同様見地ヨリ帝國ノ申入  
ノ趣旨ニ贊成セルモノト思考ス

三 中立條約締結當時ト全然國際情勢ノ變化シ同條約ガND双方ニ均等ニ  
利益ヲ與ヘ居ル現在D側ガ再ビ約束ノ即時履行方ヲ要求シ來リタルハ  
不可解ナリ(因ニ約束ノ履行ガ本件交渉ノ前提條件ナリヤ否ヤニ關シ  
テハ努メテD側ヲ追及セザル様致度)

四 然レドモ帝國トシテハ約束ノ履行問題ハ全般的懸案事項ノ一トシテ句  
括的交渉ニ應ズルニ異議ナク右交渉達成ノタメニモ差當リ本件共同聲  
明ヲ速ニ發出シ度キ希望ナリ

五 聲明案第一項ハ第二項ニ包含セラルルハ勿論ナルガ故テ第一項ヲ挿入  
セシ所以ハ最モ問題トナル點ヲ明記セントスルノ趣旨ナルニ付我方ハ  
原案ヲ堅持シ度キ意向ナリ（因ニ我方トシテハD側ハ寧ロ第二項ヲ專  
バザルモノト思料シ居リタルニ付若シD側ニシテ第一項ヲ「ドロップ」  
シ第二項ヲ存置セシムル意向ナラバ終局ニ於テハ之ニ同意スルモ已ム  
ナシ右貴使御含迄）

尙本件交渉繼續ヲ口實トシテ大使館ノ一部莫斯科歸還ヲ實現スル様相盡  
力相成度

X<sup>1</sup>X<sup>2</sup>へ派遣へべき特派使節團ニ封スル訓令要旨

實使ハ特派使節トシテ速ニX<sup>1</sup>X<sup>2</sup>兩國ニ赴キ「ヒツトラ」獨國總統及「ムツソリ」ニ「伊國首相ニ面接ノ上別紙ノ趣旨ニ即シ政戰兩略ニ亘ル諸破ノ要項ニ付今後X<sup>1</sup>X<sup>2</sup>兩國ノ探テントスル根本方針ヲ領知スルト共ニ帝國ノ包圍スル意圖ヲX<sup>1</sup>X<sup>2</sup>兩國ニ説明納得セシメ以テN<sup>1</sup>X<sup>1</sup>X<sup>2</sup>三國共同ノ戰爭指導方針確立ニ努ムルト共ニ帝國今後ノ重要國ヲ樹立ニ寄與セラレ度

一、X<sup>1</sup>X<sup>2</sup>兩國ヨリ領知スベキ事項

(一) 戦争指導方針

(二) 敵國ニ關スル重要ナル情報

(三) 軍事政治經濟思想等ニ關スル國內ノ動向

二、帝國ヨリ説明スベキ事項

(一) 戦争指導方針

(二) 敵國ニ關スル重要ナル情報

(三) 政治經濟思想等ニ關スル國內情勢

三、N<sup>1</sup>X<sup>1</sup>X<sup>2</sup>三國共同ノ戦争指導方針ニ關スル交渉事項

(一) X<sup>1</sup>國共同戦争目的ニ關スル共同宣言發出ニ關スル事項

(二) 敵國打倒方針

(三) 共同戦争指導機構ノ檢討

(首相、外相、陸相、海相連名)

駐X1大使宛訓令

〔中立「ブロック」形成方ニ關スル件〕

貴國X1側意向諒承左記趣旨ニ依リ強クX1ノ同意反付方交渉相成度  
〔各中立國ノ國際的地位同ジカラザレバ之チ一様ニ取扱ハントスル我方  
提案ニ贊成シ難シトナスハ、當方ノ諒解ニ苦シム所ニシテ、中立國ノ  
國際的地位同ジカラザルヲ以テ始メテ本件成功ノ一應、可能性ヲ予見  
シ得ベシ

〔我方中立「ブロック」提案ノ趣旨ハ不取敢爾米兩中立國特ニS4及II  
1、中立態度頗ル不安定ナルニ鑑ミ、戰爭ノ例外ニ止マラントスル之  
等諸國ノ意向ニ乘ジ、法王廳ノ人道主義的立場ニ訴ヘテ、中立維持ノ  
爲相互協力ヲ約セシメ、以テ我方對G作戰或ハX、對北阿作戰ノ成果  
擧カルガ、反瀾軸側ニ加擔セシメザラシムルヲ差當リノ目標トシ、更  
ニ將來互キニ互リ、出來得ベクハ中立ヲ維持セシムルト共ニ要スレバ  
戰爭終末等ニ關シテモ何等力利用ノ可能性ヲモ考慮シアリ。

三 將來戰局ノ發展ニ依リ土及西ニ「アプロ」チ「スル」必要ハ我方トシ  
テモ、當然計算ニ入レアル所ナルガ、右ハ戰局ノ推移如何ニ係リテ、  
必ズシモ急凍ニ右ノ態將來スルコトナキヤモ計ラレズ、等々本件差當  
リノ目標前線ノ通りナルニ於テハX1ノ邊巡ノ理ナキモ、ト思考セラ  
ル。

尙本半在平大使發本大臣宛報告ニ明セル通り、X2トシテハ相當本件ニ  
氣乘リシキルヤニ認メラル、ヲ以テ、X2ヨリX1ニ「アプロ」チ「セ  
シムル」取計ヲ予定

本報伊國ニ轉流アリタシ。



駐 X<sub>2</sub> 大 使 節 訓 令

(中立「プロツク」形成方ニ關スル件)

本件ニ關スル X<sub>1</sub> ノ 意 向 ハ 駐 X<sub>1</sub> 大 使 節 本 大 臣 節 報 告 ニ 依 リ 御 承 知 ノ 通 リ ナ  
ルニ付テハ、暫便ハ X<sub>2</sub> ナシテ主氣 X<sub>1</sub> ニ本件主氣向意方「アブローチ」セ  
シムル機取計ヒ、結果回籠アリタシ

尙本件ニ關シ X<sub>2</sub> ガ 法 王 國 及 「ラテン」系中立國ニ對スル地<sub>01</sub>ニツキ我  
方ノ好意的考慮方希望セルハ尤ノ戦ニシテ、我方トシテハ X<sub>2</sub> ナシテ本件  
申入ノ主體タラシメ、X<sub>1</sub> ト 共ニ我方ハ之ヲ援助スルノ形式トスルモ可ナ  
リト思考シアリ、御旨迄





農林内信資料

八月一三〇〇受

其ノ一 食糧配給及整備要綱

一 方針

食糧ノ現在及將來ニ於ケル需給ノ趨勢ニ鑑ミ急速ニ食糧配給機構ノ整備ヲ圖リ主要食糧ノ管理ヲ強化シ以テ食糧配給ノ適正ヲ圖ル

二 要領

一、先ヅ現行各種配給統制規則ヲ強化シ現地買出、小口輸送等統制上支障ヲ生ジ居ル事項ヲ禁止シ且業務用ノ制限ヲ強化シ更ニ強力ナル態勢ニ向フ氣運ヲ醸致ス

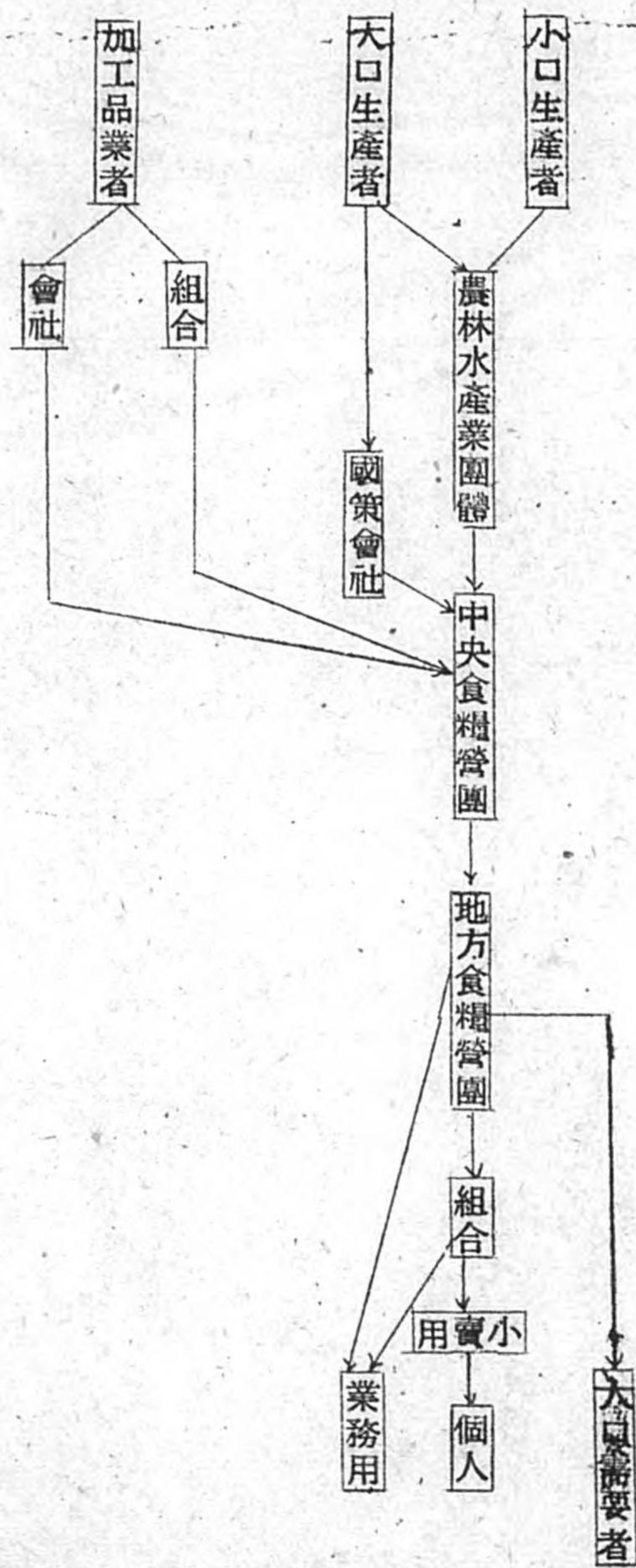
二、右ト共ニ食糧配給及消費機構ノ整備ヲ行フ、此ノ爲強力ニ（但シ可成自主的ニ）中小商工業者殊ニ小賣業者ノ整理ヲ爲ス

〔集荷機關ハ系統農林水產業團體ニ統一ス但シ從來ノ集荷機關ハ系統農林水產團體ノ指定機關トシテ用フルコトヲ得ルモノトス尙大口生産者ノ生産物ニシテ農林大臣ノ指定スルモノハ直接中央食糧營團又ハ農林大臣ノ指定スルモノ（國策會社）ニ出荷ス

糧營團ノ資本金ヲニ億圓（政府出資一億圓）ニ増確ス此ノ場合食糧配給關係ノ國策會社ハ可成之ヲ整理ス

右實行ニ伴ヒ政府ハ期別食糧ノ供給可能高ニ對應シ食糧ノ綜合配給ヲ行フニ（此ノ場合ニ於テハ勿論軍務用ノ食糧ト家庭用ノ食糧トヲ全時ニ消費スル場合ノ調整ヲ行フモノトス）

ハ食糧ノ増産ニ付テモ一層積極的ノ努力ヲ爲スト共ニ時ニ大消費地近郊ニ於ケル消費者ノ自家生産ヲ擴充強化スルモノトス



(圖面) (國家管理ノ場合)

其ノ二 主要法律

- (一) 農林水産業團體法 農林水産業ノ關係團體ヲ整理統合シ且之ヲ農林水産業ノ統制運營ヲ圖ル爲ノ國家的關係トス
- (二) 農地調整法中改正法律實際耕作者ノ生活安定ヲ圖リ且長期持久ノ農業生産力ノ維持培養ヲ圖ル爲自作農ヲ強化シ小作關係ノ調整（參考朝鮮農地令）ヲ爲ス
- (三) 農業保險法中改正法律農會ノ行フ共濟事業ヲ強制制度ニ改メ農業保險ヲ強化ス
- (四) 木炭需給調節特別會計法中改正法律薪ヲ木炭ト全ジク政府ガ之ヲ買上ゲ配給ス

極秘

普通鋼々材民需配給計畫ト之ニ伴フ措置並ニ影響調

(商工大臣)

05 用普通鋼々材ニ六〇〇〇〇屯ノ場合ノ措置並ニ影響概ネ左ノ如シ

一、配當方針並ニ影響

化學工業、不足物資填補對策、産業用車輛、機械金屬工業、鑛業、瓦斯事業、軌道等ノ維持補修用ニ主力ヲ注ギ紡織工業、雜工業、土木建築、公共團體、ソノ他國民生活一般ニ關シテハ極度ノ壓縮ヲ行フモノトス ソノ影響左ノ如シ

1. 農林水産業ニ付テハ農器具、馬具、蹄鐵、野鍛冶、水產具、農林水産土木建築、包装用針金、釘等ノ補修用スラ不充分ニシテ關係機械ハ製造及修理ヲ中止ス

2. 食糧品加工業ニ付テハ櫛ネ之カ維持ニツトノ時ニ煉粉乳ノ空罐ノ供給ヲ確保ス

●保健衛生ニ付テハ醫藥品製造及醫務器械製造業ノ補修用モ不充分ニシテ、結核療養所ノ新設ハ中止、勞務者厚生施設及一般体育施設等ハ修理及新設ヲ中止ス

④住宅ニ關シテハ工場會社用住宅、營團住宅、借家組合ノ住宅等ハ修理及建築中止、一般的ニ住宅新築ハ極度ニ困難トナル

⑤國民生活用品ハ大衆浴場用風呂釜、寒冷地方ノ煙突、炭房、櫛、荷車、電球、電氣配線器具、工場兼用照明器具、一般用釘、針金等ノ修理補修モ不充分ナリ 度量衡、一般利器、バリカン、理髮用具、建築用家具金物、ラチオ、同真空管ソノ他生活用雜品ニ付テハ修理及製造不可能ナリ

6. 教育關係ノ中等學校以上ノ學校ノ管轄ハ一切中止尙一般的ニ教育上ノ機械類ノ新造及修理ハ不可能ナリ

7. 公共團體ノ上水道、下水道、橋梁、國民學校ノ補修ヲ辛ウジテ爲シ得ルモノトス

道路、港灣、河川、砂防工事、公立病院、塵芥焼却場、公共団体用建築物等ハ一切修理及新設中止ス

7. 鐵道軌道ハ補修ノミ、圓タクハ廢棄ス

9. 船舶（漁船、機帆船）ハ維持補修ノミ

10. 電氣事業（自家發電）ハ維持補修スラ不充分ナリ

11. 瓦斯事業ハ維持補修ノミ

12. 土木建築ハ僅少ヲ配給ス新築物ハ殆ド不可能ナリ

13. 紡織製紙業、製陶其他ノ雜工業ハ修理スラ殆ド不可能ナリ

企業ノ徹底的整理ヲ要ス

14. 化學工業（硝酸、爆藥、航空燃料）機械工業（船舶用部品）ニ付テハ生産不足ノ緊急事態ヲ生ジタルトキハヨリ融通ヲ受クルモノアルモノトス

15. 試驗研究ハ眞ニ緊急ナルモノヲ若干行フノミ

ニ右ニ關聯シ執ルベキ措置

1. 已ニ四月末迄ニ執リアリシ衣料切符制ノ改正、新聞雜誌、書籍、印

刷物等ノ整理、株價對策、織維工業、鑛業ソノ他雜工業ニ於ケル輔業者對策等ノ措置ヲ強力ニ施行スルノ外尙左ノ措置ヲ執ルモノトス

(1) 衣料品、ガラス陶磁器、セルロイド、紙、擬革等ノ製品ノ規格ヲ徹底的ニ單純化シ且ハ生活必需品以外ノ不急品ノ製造ヲ禁止ス、

之ニ關シテハ相當數ノ要購業者ヲ發生スル見込

(2) 生産力擴充關係ノ工員宿舍ニ充當スルタメ民家、料理屋、寺院等

ノ徵用ヲナス 之ニ依ル要購業者ノ

(3) 區々ク約三區臺ハ廢棄シテスクラップ化ス

配置ニツキ厚生省ニ連絡ス

(4) 不急土建事業(例、忠電塔建設等)ヲ中止スル

料理屋、待合旅館等ノ修理ヲ絕對ニ禁止方内務省ト打合

内大衆浴場用風呂釜ノ維持修理相當困難ナルヲ以テ之ガ對策方内務



省ニ連絡ス（浴場ノ休日ヲ増加ノ要アルベシ）

（一般民需品供給量全面的ニ減少シ他面資金放出著増スルヲ以テ徹

底的ナル購買力吸收策實施ニ關シ大藏省ニ連絡ス  
大政翼贊會ニ一層ノ國民生活切詰ノ運動展開方ヲ要望ス

極秘

通關木材の配當二六〇〇〇〇〇  
 場台ニ於ケル内ノ配當計畫案（商工省）

業種	所要量	査定額	
農林水産業	五、七三〇	一八、〇〇〇	
農機具	二、一五一	八、〇〇〇	林業機具ヲ含ム
林業器具	一、三二一	〇	
鋸糸機械	一、二八一	〇	
馬具蹄鐵	二、六九五	〇	馬具蹄鐵ヲ含ム
野鐵治	三、五九〇	二、〇〇〇	
水産具	七、一一三	三、〇〇〇	
農林水産用包装	一〇、九六四	四、〇〇〇	
土木建築	二、六一五	一、〇〇〇	
食料品加工業	二、一五七	一、九〇〇	
雜物用	九五九	八〇〇	

煉粉乳空罐  
 保健衛生  
 醫藥品製造  
 醫藥機械  
 結核療養用  
 勞務者厚生施設  
 住宅  
 工場會社住宅  
 營團住宅  
 貸家組合  
 國民生活用品  
 風呂釜  
 煙突煖房  
 櫛、荷車

一二九八  
 三八七六  
 八九八  
 五二三  
 一、九三四  
 五二一  
 四四七四  
 八〇、〇九二  
 六七八〇  
 五二一一  
 五二一一

一、一〇〇  
 一、〇〇〇  
 六〇〇  
 四〇〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 一、九〇〇〇  
 三、〇〇〇  
 三、〇〇〇  
 三、〇〇〇

乳兒用煉粉乳ノ配給ハ現状維持ニ努ム

結核療養所建設中止  
 觀光ホテル、別荘ノ飯用ヲ必要トスベシ

必要アル場ヨハ住宅ヲ徵用ス  
 營團住宅建築中止

度量衡  
 利器用  
 パリカン理髪用具  
 用具  
 建築用金物  
 電球  
 電氣配線器具  
 照明器具  
 ラジオ  
 真空管  
 一般包装用  
 其ノ他  
 内 教 育  
 學校營繕  
 教材用理學機械

三、二九〇  
 四〇〇〇  
 四〇〇〇  
 九、四〇〇  
 一、六四五  
 一、五四五  
 一、五七五  
 四、三一三  
 三、一七  
 七、〇〇〇  
 二、二〇〇  
 一、四六八  
 一、二九四  
 一、〇〇八

〇  
 〇  
 〇  
 四、〇〇〇  
 五、〇〇〇  
 〇  
 〇  
 一、〇〇〇  
 一、〇〇〇  
 一、〇〇〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇

交通機關及工鑛業照明燈

銅、針金

防空用具其ノ他

教材及學用品  
 公共團體  
 上水道  
 下水道  
 道路  
 橋梁  
 港灣  
 河川  
 砂防  
 公立病院  
 鹿介燻却物  
 公衙新築  
 內務省關係  
 國民學校

一六六  
 三一、八二四  
 八、五五二  
 五四一  
 九〇二  
 三、九六七  
 二、六二二  
 三、〇三一  
 四五  
 四九四  
 一一〇  
 七一八  
 一、〇八〇  
 二、三四〇

八、一〇〇  
 四、〇〇〇  
 三、〇〇〇  
 二、〇〇〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 一〇〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 一、五〇〇

修繕

工業學校  
 其他學校教材  
 土木建築  
 (六)鐵道軌道(私鐵)  
 補修  
 新規  
 (九)船 舶  
 漁 船  
 其 他  
 (十)電氣事業  
 自家發電  
 特殊電氣通信  
 其 他  
 (七)瓦斯事業

三六六	七七〇	六二八六	一九九四二	一四〇三八	五九〇四	一四八一四	三二四一	一一五七三	二三四五	七七五	一四六二	一〇八	二八八〇二
二〇〇	〇	〇	一〇〇〇	一〇〇〇	〇	一〇〇〇〇	二〇〇〇	八〇〇〇	一〇〇	四〇〇	七〇〇	〇	一三〇〇〇

修 善

不 急  
 關 門  
 ト 土 木 工 事 中 止  
 ン ホ ル 工 事 中 止  
 要 ス

一 部 軌 道 子 回 收

修 善

新規	二一、〇九六	五、〇〇〇
補修	七、七〇六	七、〇〇〇
(四) 土木建築	二、〇八一	一、〇〇〇
(三) 紡織製紙	二五、五五六	一、一〇〇
化學纖維	一、四二〇	五、〇〇〇
傍續	一、五三七	—
製紙	一、二五九九	六〇〇
(二) 鑛業	七、三九九	六、〇〇〇
硫黃	二、一七〇	二、〇〇〇
硫化鐵	三、三〇〇	三、〇〇〇
亞炭	一、六五〇	一、〇〇〇
其他	二七九	〇
(一) 機械金屬業	五四、二三六	四二、〇〇〇
機械工業維持用	四四、〇〇〇	三五、〇〇〇

金圃工業維持用	八、二三六	七、〇〇〇
其他産業維持用	二、〇〇〇	〇
(六) 産業車輛用	一一、六七一三	六、八〇〇
自轉車	八四、九五九	四、〇〇〇
大型自動車	一〇、〇〇〇	七、〇〇〇
小型自動車	三、二〇六	三、〇〇〇
代燃裝置	一九、六二一	一、〇〇〇
靛氣自動車	八八一	八〇〇
(七) 化學工業	六五、〇〇〇	四、八〇〇
(八) 不足物考填補對策	一一、六二六	一〇、〇〇〇
(九) 試驗研究用	一三、七〇二	一、〇〇〇
合計	五四、八九七	二六、〇〇〇

修理ノミ  
 トラック、バス、ノ修理、圓タク、廢止  
 圓タク廢止  
 代燃裝置済ノモノ、來年度ハ減少圓タク廢止

(註) 「所要量」ハ昭和十七年度需要量トシテ要求セラレタルモノ



# 参考

## 港灣荷役力増強對策説明資料

一、最近ニ於ケル港灣荷役力低下ノ原因

□ 勞務者ノ不足

人員數ニ於テ昭和十五年以降逐年平均二割程度減少セル、外稼働率ニ於テ約三割三分、低下ヲ示セリ

註(1) 數、減少ハ工場方面へ、

雇、業者、採算條件、悪化等ニ因ル  
雇、業者、採算條件、悪化等ニ因ル

註(2) 稼働率、低下ハ勞務者、質、低下、收入増等ニ因ル  
作業者率、低下

從來勞務者一人一日平均能力、船内ニ在リテハ約二十噸、沿岸ニ在リテハ約十噸ヲ基準トセルガ最近ニ於テハ船内十五、六噸、沿岸六、七噸ニ夫々低下セリ

註、キトシテ熟練勞務者、擯出、賃銀ノ公定、荷役用物資配給、不圓滑等ニ因ル

三 船回率、低下

最近ニ於ケル一ヶ月平均航海度以ハ約三・三航海ニシテ戰前ニ比シ約一・五航海、減少ヲ示セリ

註・船水切能率、低下、揚場、不足等ニ基ク船滞船日、増加也

船用油、配給不圓滑等ニ因ル

四 荷役用物資、不足

勞務者用飯米、酒等、不足及軍手、地下足袋、石鹼、手拭等、入手難ニ因リ作業能率ヲ著シク減殺シタルト共ニ強行荷役ヲ困難ナラシメツツアリ

五 倉庫揚場、不足

臨水地帯ニ於ケル倉庫、上屋、野積場、貯炭場等、不足ニ因リ作業能率著シク悪化セシメツツアリ

六 船舶運送制限實施、船舶動靜通報制限等ニ因ル荷役手配、困難  
七 對策（現在實施中、モ、）

(一) 勞務者、優先割當 (厚生省)

厚生省及國民職業指導所ト連絡シ一部實施中

(二) 賃金割増、特例措置 (厚生省及各府縣)

厚生省及各府縣ト連絡シ特ニ出來高拂制、特例措置ニ關シ一部實施中ナルモ港灣勞務、特質ニ鑑ミ右、範圍ヲ更ニ擴張スル、要アリ

(三) 俘虜、使役 (軍、企畫院、厚生省及各府縣)

阪神地方ニ於ケル俘虜使役成績ニ鑑ミ今回更ニ香港方面ヨリ約三千五百名、英人俘虜ヲ移入シ軍、企畫院、厚生省、特別ノ配慮ニ依リ差當リ重要港、港灣荷役ニ之ヲ使役スルコトトナリ京濱港ニ於テハ既ニ一部實施中ナリ

(四) 勤勞報告隊、出動 (厚生省)

北海道及日本海ノ諸港ニ於テ既ニ港灣荷役ニ勤勞報告隊ヲ出動セシメ好成績ヲ收メタリ

四 荷役、共同引受ニ依ル勞務者、相互融通

現在ニ於ケル勞務不足、現象ガ經營部面ノ缺陷ニ因由スル所多キニ鑑ミ之ガ經營機構、改善刷新ヲ圖ルベク目下進捗中ナルモ差當リ勞務、偏在チ是正スルガ爲過渡的措置トシテ共同荷役作業、實施方指導中

五 勞務者福利施設、擴充

既存ノ施設ヲ利用スル、外更ニ之ガ擴充強化ヲ圖リ勞務者、宿泊醫療、養成其、他共濟厚生施設、萬全ヲ期スル爲厚生省協力、下ニ、東京、橫濱、名古屋、神戸及大阪ニ財團法人港灣荷役改善協會、設立方手續中

六 荷役用物資、増特配（大藏省、商工省、農林省、各府縣）

曩ニ戰時輸送強化期間（自四月至六月）中ニ於テ實施セラレタル荷役用物資特配、成績ニ鑑ミ今回更ニ自九月至十二月ヲ海上輸送強化期間トシ米、酒、軍手、地下足袋、石鹼等、荷役用物資増特

配方ニ付企畫院及大藏、商工、農林各當局ト交渉セル結果現在迄ニ決定セル分左ノ如シ

米 右期間中一日一人當五合迄増加スルコトトシ普通配給基準量ト

右五合トノ差額ヲ特配數量トス但シ特配數量 米麥ノ外食糧事情ニ依リ乾麵其ノ他ノ代用食ヲ以テ之ニ代フルコトアルベシ

九月九日附食糧管理局長官ヨリ關係府縣知事宛通牒済

酒 右期間中一〇二八<sup>石</sup>三特配方九月四日附大藏省主稅局長ヨリ大

日本酒類販賣株式會社宛指令済

軍手 右期間中ニ於テ一一三、八五七双特配ノ豫定

(八)夜荷役ノ強行

夜荷役用飯米ノ増配及賃金割増ノ實施ヲ必要トス

(九)解回轉率ノ向下

(一〇)解ノ共同運用

港灣作業會社ノ設立後ニ於テハ解ノ一元的運營ノ完璧ヲ期シ得ベキモ

差當リ京濱灣ニ於ケル鋼材解ノ逼迫ニ對處スル爲應急措置トシテ之ガ一部實施ニ着手シ效果ヲ擧ゲツツアリ

(四) 停滯船ノ防止

特ニ滯船期間ノ甚シキ荷主河岸ニ係官ヲ派シ荷主ニ警告ヲ爲スト共ニ沿岸人夫ヲ督勵ス

(五) 小口物配達ノ整理

(六) 指定河岸總揚ノ實施

(七) 小口物船内荷卸ノ廢止

乃至(七)ニ付テハ京濱港鋼材荷役ノ促進方ニ關シト係方面ト協議ノ結果既ニ之ガ實行ニ着手セリ

(八) 荷役ノ機械化

今後ニ於ケル勞務不足激化ノ情勢ニ對應シ荷役ノ機械化ヲ促進スルノ要愈々緊切ナルニ鑑ミ之ガ所要資材ノ優先割當方企畫院ニ對シ要求中

(九) 倉庫及揚場ノ新設擴張

(十) 船舶動靜通報連絡ノ迅速化

(十三) 荷役ノ督勵

戰時輸送強化期間中主港ニ關係官民ヨリ成ル荷役督勵班ヲ設置シ連日ニ亘リ現場ノ巡視督勵ヲ行ヒ荷役促進上大イニ寄與スル所アリタルヲ以テ必要ニ應ジ之ガ實施中ナリ

(十四) 港灣荷役補助金ノ交付

戰時下船舶ノ不足竝ニ集團護送制ノ實施ニ伴ヒ港灣荷役狀況ニ波動性大ナル結果業者ニ依ル港灣勞務ノ常時保有ハ經濟上極メテ困難ナル現況ニアルヲ以テ差向キ集團入港艘モ多キ六大港ニ於ケル荷役業者ヲシテ常時確保スベキ荷役能力ノ絕對權ヲ保有セシメ戰時輸送ノ圓滑ヲ圖ルノ必要アリ依テ之ガ爲生ズベキ業者ノ經濟的負擔ヲ補助スルニ要スル經費トシテ豫算要求中ナリ

(十五) 港灣作業會社ノ設立

港灣荷役ノ增強ニ關シテハ既ニ各種ノ對策ヲ講ジ戰時輸送下ニ於ケル最隘路ノ啓開ニ努メ來リタルモ戰時集團輸送竝ニ重點荷役ノ絕對的要

請ニ對處シ尙今後ニ於ケル勞務不足ノ激化ニ鑑ミルトキ現在ノ經濟機構ノトニ於ケル彌縫策ヲ以テシテハ到底之ガ根本的解決ヲ期シ得ザルコト極メテ明瞭ニシテ速カニ之ガ一元的運營機構ノ確立ニ依リ荷役能力ノ強化擴充ト計畫的重點的荷役ノ徹底化ヲ圖ルニ非ザレバ我國ノ港灣荷役ハ重大ナルニ難關ニ逢着スルコト必定ナリ

當省指導ノトニ目下設立進捗中ノ港灣作業會社ハ今後ノ如何ナル推移ニモ對應シ得ベキ港灣ノ總動員態勢ノ急速整備ヲ目途トスルモノナルヲ以テ之ガ設立後ニ於ケル指導育成方ニ關シテハ豫メ特ニ關係各方面ノ積極的協力ヲ切望ス



戰時港灣荷役力ノ緊急增強ニ關スル件（一七二二〇閣議決定）

第一方針

海上輸送力ノ逼迫ニ對應シ造船ノ促進、陸運ヘノ轉換其ノ他既定方針ニ基ク措備ノ實效ヲ舉グルノ外極力船舶稼行率ノ昂上ヲ圖リ以テ船腹ノ積極的創出ニ資スル爲戰時港灣荷役力ノ劃期的增強ヲ目途トシ左ノ緊急方策ヲ實施スルモノトス

第二要領

- 一、主要港ニ於ケル標準荷役能率ノ概ネ五割引上ヲ目標トシ之ニ依リ年間約百萬總噸ノ船腹ノ捻出ヲ圖ル
- 二、右ノ目標ヲ達成スルガ爲官民協力シテ挺身躬行シ極力作業能率ノ増進ニ努ムルト共ニ勞務委員ノ確保ヲ圖ル
- 三、之ガ爲食糧及作業用必需物資ノ増配、賃金及給與ノ特例措備、勞務管理ノ徹底、能率獎勵金ノ交付等ニ關シ必要ナル行政措備ヲ講ズ尙要スレバ船員ノ微用ヲ考慮ス

四 港灣運送力ノ強化ヲ圖ル爲必要ニ應ジ揚場ノ集約整理及貨物ノ  
總揚制ヲ實施スルト共ニ河役機械ノ緊急整備ヲ圖ル  
五 港灣運送業ノ統合ヲ志速ニ完了シ本件實施ノ中核体タラシムル  
ト共ニ政府ノ行政措置ニ因リ企業ノ採算ヲ著シク惡化セシムタル  
場合ニ於テハ其ノ經濟的負擔ニ付適當ナル財政措置ヲ考慮ス

### 第三 措 置

- 一 本件ヲ實施スベキ港灣ハ左ノ如トス  
東京、濱濱、(川崎ヲ含ム)、名古屋、大阪、神戸、關門、八幡、  
小倉、室蘭、釧路、留萌、新潟、伏木、敦賀、船川
- 二 小倉、室蘭、釧路、留萌ノ各港ニ在リテハ冬期ハ二割ノ引上ト  
シ特ニ石炭積出設備ノ建設及修理ヲ促進ス
- 三 新潟、伏木、敦賀、船川ノ各港ニ在リテハ春當リ三割ノ引上ト  
シ京濱向北海道及樺太炭ノ養日本揚増送ニ照應シ荷揚及貯炭能力  
ノ増強ニ必要ナル緊急措置ヲ講ズ

四 上記以外ノ諸港ニ付テモ状況ニ依リ右ニ準ジ必要ナル措置ヲ釐  
ズ

五 逓信省ハ關係各縣ト連繫ノ下ニ本件實施ノ衝ニ當リ増強目標ノ  
達成ヲ期ス

六 關係各縣ハ本件ノ實施ニ關シ左ノ如ク措置ス

（一） 港灣勞務要員ノ優先割當ヲ行フト共ニ要スレバ華人勞務者ノ  
移入ヲ考慮スルコト（厚生省）（別紙一参照）

（二） 勤勞報酬隊ノ供出組織ヲ確立スルコト（厚生省）

（三） 米、酒及煙草ノ増特配ヲ行フト（農林省、大藏省）（別紙二参照）

（四） 軍手、地下足袋、作業衣、石鹼等ノ作業用必需物資並ニ曳船  
用重油及機械油ノ増特配ヲ爲スト共ニ荷役機械用資材ノ配給ヲ  
行フト（商工省）（別紙三参照）

（五） 早出、夜荷役其ノ他荷役ノ能率増進ニ付強力ナル現場指導ヲ  
行フト（逓信省、内務省）

内 舩船ノ修理ヲ促進シ必要ニ應ジ舩船ニ依ル長距離又ハ陸地間  
運送ヲ制限スルト共ニ荷役機械ノ整備及揚場ノ集約整理ヲ行フ  
コト（遞信省）

内 鐵道關係荷役施設ノ急速整備及陸上荷役力ノ強化ヲ圖ルト共  
ニ鐵道及貨物自動車ニ依ル陸上輸送力ヲ増強スルコト（鐵道省）  
内 港灣荷役力ノ確保ニ伴フ企業負擔ニ付必要ナル補助ヲ爲スト  
共ニ増強目標ヲ超エタル荷役実績ニ對シテハ特別獎勵金ノ交付  
ヲ考慮スルコト（遞信省）

内 右諸項ノ中道府縣廳ニ關係アルモノニ付テハ本件ノ實施ニ協  
力セシムルコト（內務省）

七 本件ハ昭和十七年十二月一日ヨリ之ヲ實施スルモノトシ之ガ爲  
各港ノ實情ニ應ジ強力ナル連絡實施組織ヲ設ク（別紙四参照）

八 本件ノ趣旨徹底ヲ圖リ其ノ實效ヲ確保スル爲昭和十七年十二月  
一日ヨリ昭和十八年三月末日ニ至ル期間ヲ港灣荷役増強期間トシ

官民協力ノ下ニ強力ナル現場督勵ヲ行ヒ従業員ノ士氣ノ昂揚、熱  
意ノ鼓吹ニ努ム

備 考

滿洲及支那ニ於ケル港灣荷役力ノ增強ニ關シテモ本件ニ準ジ  
措置セシムルモノトス

參考

別紙一

各港別所要勞務者數調

港名	所要勞務者數		摘要
	船内	沿岸	
東京	一九二〇人	三六四〇人	
橫濱	一九二〇人	三七四〇人	
川崎	七七〇	二七〇	
名古屋	一〇七四〇	二〇三二〇	
大阪	一八二七〇	三六四四〇	
神戸	八五〇〇	一五〇七〇	
關門	六五七〇〇	一三九〇〇	

八 新 伏 敦 船 小 室 劍 留

合  
計

備 湯 木 賀 川 樽 關 路 萌

一 六 七 五 三 四 〇〇	一 八 〇	三 七 四 五 〇〇	一 五 九 一 〇 〇〇	四 七 二 八 〇〇	三 四 〇	二 三 〇	一 一 六 〇	六 七 〇	一 七 六 〇
----------------------------------	-------------	------------------------	-----------------------------	------------------------	-------------	-------------	------------------	-------------	------------------

二 六 六 七 四 〇〇	二 六 〇	七 九 〇	二 六 五 〇	八 五 〇	三 八 〇	二 三 〇	一 三 六 〇	八 八 〇	三 一 〇 〇
-----------------------------	-------------	-------------	------------------	-------------	-------------	-------------	------------------	-------------	------------------

四  
三  
四  
一  
〇  
人

(註)

小樽、室蘭及釧路ニ付テハ右記ハ冬期、左記ハ夏期所要勞務者數  
ヲ示ス

合計數ハ冬期ノ分ニ據リタリ

備考

(1) 本表所要勞務者數ハ十月各港揚積計獲取量及八月分荷役實績

ヲ勘案セルモノニ基キ之ヲ概定セリ

(2) 括弧内ハA B船關係所要勞務者數再掲ニシテA船ニ付テハ昭

和十七年四月以降八月迄ノ一ヶ月平均、B船ニ付テハ同年四月

以降九月迄ノ一ヶ月平均荷役實績ニ基キ所要勞務者數ヲ概定セ

リ

(3) 川崎、新潟、小樽、室蘭、釧路、留萌ノ各港ニ在リテハ機械

力ヲ考慮シ所要勞務者數ヲ概定セリ



#### 四 荷役能力

輸送機關ノ能率ヲ極度ニ昂上スル爲荷役力ヲ增強ス其ノ方法左ノ如シ

- (1) 大口荷役ノ機械化（石炭積却施設ヲ含ム）
- (2) 荷役關係者ノ精神的指導
- (3) 俸勞ノ使用及徵用者及報國隊ノ使用増加

#### 五 施設

輸送増加ニ對應スル爲幹線ノ線路容量増加及操車場改良及貨車機關車ノ増備ヲナス其ノ主要ナルモノ左ノ如シ

- (1) 關門第二隧道ノ急速完成（一九年一〇月ノ予定）
- (2) 山陽線ノ全線複線化
- (3) 常磐線及高崎線ノ信號自動化
- (4) 京都大津及敦賀米原間線路増設其ノ他
- (5) 石炭輸送ニ必要ナル操車場ノ改良（成ルヘク速カニ着手ス）
- (6) 貨車及機關車ノ増備

軍極秘

總機演第六號ノ四

昭和十七年十二月五日 一五〇〇交付

總力戦机上演習統監 遠藤喜一

第二期演習後段追加情況及課題

〔一〕昭和十八年五月ノ狀況

一戰況

〔一〕在 O A 飛行機ハ N 航空部隊ニ屢機先ヲ制セラレ居リシガ五月上旬十

數機ノ編隊ヲ以テ臺灣及關西以四ヲ各二回空襲セリ

N H A 飛行機二十五機墜セルモ左ノ如キ損害ヲ被リタリ

〔1〕製鐵所 日鐵廣崎製鐵所熔鐵爐一基（千地爐）中破修理ニハ最少

限度八ヶ月ヲ要スル見込

〔2〕發電所 尼ヶ崎發電所發電機一基破壊修理殆ド不可能

〔3〕船舶 十五隻約六萬噸（潜水艦ノ通商破壊戰ヲ依ル三隻約二萬噸ヲ含ム）

〔4〕民家 二萬戶焼失

〔二〕五月一日到丁作戰ヲ開始シ其ノ經過極メテ順調ナリ

(三)五月十五日W<sup>1</sup> N 占領島ニ對シ空母二隻ヲ主隊トスルA 輕快部隊攻撃  
シ來リ相當ノ被害アリタルモ之ヲ擊退セリ

同日A 大型飛行艇數機寧蘭ヲ燦撃セルモ大ナル損害ナシ

(四)南「コーカサス」及Y 戦線ハX 側ニ稍有利ナルモノノ如シ

D<sup>4</sup>方面ノBADノ戦力相當強大ナリトノ情報アリ

(五)五月ノ通商破壊戦戦果

N 八十隻(約五萬屯) X 八八五萬屯

### 二内外情勢

(一)對J 作戰開始及空襲ニ依リ國民ノ精神緊張セリ

然レドモ其反面被害ニ關スル流言多ク不安動搖掩ヒ難シ、又空襲下國民一般ノ行動ハ未ダ十分ナラズ殊ニ有産階層ニハ防空ニ協力セズシテ  
離散セルモノ相當多數ニ上リ非難多シ

(二)S<sup>3</sup>S<sup>4</sup>ハ親A 傾向益顯著トナリ對X 斷交ノ氣運激化シツツアリ

其ノ他中立國ノ情勢ニ大ナル變化ナシ

三 中立國筋ノ論調ハNノ意圖ハJノ徹底的驟破ニ在ルベキモJノ覆滅  
ハ困難ナラントノ觀測多シ

四 四月下旬出發セル特派使節ハ五月十日X<sub>1</sub>ニ到着セリ

(二) 課題

青國演習諸機關ガ五月末迄ニ執ラントスル處置ヲ(十二月七日一四〇〇  
迄ニ)導出スベシ